

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	川村学園女子大学
設置者名	学校法人 川村学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	国際英語学科	夜・通信	12	-	14	26	13	
	史学科	夜・通信			14	26	13	
	心理学科	夜・通信			41	53	13	
	日本文化学科	夜・通信			12	24	13	
教育学部	幼児教育学科	夜・通信		-	19	31	13	
	児童教育学科	夜・通信			15	27	13	
生活創造学部	生活文化学科	夜・通信		-	10	22	13	
	観光文化学科	夜・通信			22	34	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/2022gakubu_jitumu.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	川村学園女子大学
設置者名	学校法人 川村学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

http://www.kawamura.ac.jp/gakuen/info.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	ダイキン工業（株） 特別顧問	令和元年 5 月 30 日～令 和 6 年 5 月 29 日	教学に関する事項。 教育委員会教育委 員の経験を踏まえ て法人全体及び各 学校の教育に関し て意見する。
非常勤	元 清水建設（株） 常任顧問	令和元年 5 月 30 日～令 和 6 年 5 月 29 日	財務に関する事項。 企業での執行役員、 常任顧問の経験を 踏まえ、本法人の経 営・財政について客 観的な見解を示す。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	川村学園女子大学
設置者名	学校法人 川村学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>12月にシラバス作成に関するFD研修を開催する。 各教員はFD研修の内容及び「シラバス作成のためのガイドライン」に基づき、1月中にシラバスの入稿を行う。 入稿期間終了後、学科長等がシラバスの内容確認・修正指示を行い、シラバスの内容に不備のあった教員は修正を行う。 全シラバスの入稿が完了する3月中旬から下旬にホームページ上にシラバスを公開している。 全学的に同様の取り扱いをしている。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://portal.kgwu.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各学生の学修成果を、学生の授業への取り組む姿勢・試験結果・レポートの内容・卒業論文・ループリックによる評価等により多角的に把握している。 上記の方法により把握した学生の学修成果を、シラバスに記載された成績評価の方法及び基準により、厳格かつ適正に評価して単位を与えている。 全学的に同様の取り扱いをしている。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各学生の成績がどの位置にあるかを把握できるよう、履修規程に定めるG P Aを用いて表す仕組みを導入しており、G P Aの平均値及び各学年の分布状況について、ホームページ上に公開している。</p> <p>各授業科目において成績評価を行う際には、原則としてAA：0～10%、A：10～30%の範囲内で評価を行い、AAとAを合わせて30%を超えない範囲で評価するものと定めている。</p> <p>G P Aの算出方法は以下のとおりである。 成績評価：AA…4、A…3、B…2、C…1、D・N…0 G P A…(履修登録科目のG P ×当該科目の単位数)の総和÷履修総単位数</p> <p>全学的に同様の取り扱いをしている。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/03/2022gakubu_risyuannai.pdf (P40)</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>教学マネジメント会議において、卒業の認定に関する方針としてディプロマ・ポリシーを策定し、ホームページ上に公開している。</p> <p>ディプロマ・ポリシー及び学科毎に定められた単位数の修得状況を踏まえて、教授会において卒業判定を行い、その審議結果に基づき学長が卒業を認定し、学位を授与している。</p> <p>全学的に同様の取り扱いをしている。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/DP2022.pdf</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	川村学園女子大学
設置者名	学校法人 川村学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.kawamura.ac.jp/gakuen/info.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.kawamura.ac.jp/gakuen/info.html
財産目録	http://www.kawamura.ac.jp/gakuen/info.html
事業報告書	http://www.kawamura.ac.jp/gakuen/info.html
監事による監査報告(書)	http://www.kawamura.ac.jp/gakuen/info.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kgwu.ac.jp/guide/disclosure/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kgwu.ac.jp/guide/ninshouhyouka/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2021/10/2020jikotenken.pdf P11）
（概要） 文学部は、国際英語学科・史学科・心理学科・日本文化学科からなる。各学科の人材養成の目的は、国際英語学科が「教養に裏打ちされた語学力を修得し、世界の人々とコミュニケーションを図ることのできる人材の養成」、史学科が「日本と世界の歴史と文化に対する理解を深め、それを現代社会の諸問題に応用できる人材の養成」、心理学科が、「認知、社会、発達、臨床の多領域にわたる専門的知識を修得し、人々の心を探究し、自己をとりまく環境をより豊かにしていく役割を担える人材の養成」、日本文化学科が「「和」の心を基盤に、理論と実技の両面から日本文化を理解し、世界に向けて日本文化を発信できる人材の養成」である。 つまり、本学の目的である「教養ある女性の養成」に整合的な学部である。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/DP2022.pdf ）
（概要） 教学マネジメント会議において、卒業の認定に関する方針として建学の精神に基づいたディプロマ・ポリシーを策定し、ホームページ上に公開している。 学生の卒業にあたっては、ディプロマ・ポリシー及び学科毎に定められた単位数の修得状況を踏まえて卒業判定会議を行い、そこで承認された者について卒業を認定し、学位を授与している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/CP2022.pdf ）
（概要） 【教育課程の編成】 文学部は国際英語学科、史学科、心理学科、日本文化学科を設置し、各学科が全学共通科目と学科専門科目を体系的に配置する。 【学修方法・学修過程】 全学共通カリキュラムによる教養教育と職業人教育に加えて、各学科の専門科目を初年次から履修可能とする。 学年進行とともに、順次性のある専門的な科目を配置し、卒業論文を必修とする。 少人数のゼミナールを低年次から高年次まで導入する。 各学科のカリキュラム・ポリシーに沿って、実習科目を中心とするアクティブラーニングによって体験的、主体的に学修を行う。 取得単位数の上限を設定し（CAP制）、学生の学修を支援する。 【学修成果の評価の在り方】 GPAによる成績評価を運用し、適切な評価を行う。 各学生の学修の展開と成果を学修ポートフォリオによって評価する。 実習の記録などを通じて、学生の主体的な学修と協働の態度を養い、評価する。 ルーブリックにより、基礎的な学力、思考力、主体的な協働を評価する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/AP2022.pdf ）

(概要)

国際英語学科 アドミッション・ポリシー

【求める学生像】

1. 高度な英語運用能力と、さまざまな状況に対応できるコミュニケーション能力を身につけたい人
2. 世界各国の言語や文化、および国際関係について理解を深め、国際社会においてビジネス、教育、文化活動、ボランティアなどさまざまな領域で活躍したい人
3. グローバル時代の社会的・文化的諸問題に関心を持ち、積極的に他者と関わりながら問題の発見・解決にとり組みたい人

【入学前に培うことを求める力】

1. 知識・技能
 - ・高等学校までの履修科目について、基礎的な内容を総合的に学習している。
 - ・CEFR A2程度の英語運用能力を身につけている。
2. 思考力・判断力・表現力等の能力
 - ・国際情勢や文化摩擦などの社会問題に関心を持ち、自分なりの問題意識を持って考えることができる。
 - ・社会問題について意見をもち、それを他の人に分かりやすく伝えることができる。
 - ・自分と異なる意見に耳を傾け、話し合うことができる。
3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度
 - ・地域社会の活動などにおいて、年齢や社会的立場、あるいは文化的背景が異なる人々と積極的に交流したことがある。
 - ・学校の文化祭や部活動などにおいて、他の人々と協力して課題を達成したことがある。

【評価方法】

1. 基礎知識・技能
学力試験（一般選抜、大学入学共通テスト利用）、調査書（評定平均値）の活用、外部資格試験結果（学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜）によって、高等学校までの履修科目について、基礎的な内容を修得していることを評価する。
2. 思考力・判断力・表現力
選択課題（学校推薦型選抜、総合型選抜）によって、自分の考えを論理的にまとめ、人に伝えるための基礎的な能力を評価する。
3. 主体性・協働
調査書等の内容（学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜）、面接（学校推薦型選抜、総合型選抜）によって、周りの人々や社会と主体的に関わり、ともに学ぶ態度を評価する。

史学科 アドミッション・ポリシー

【求める学生像】

1. 「自覚ある女性」の育成という川村学園創立の精神を理解し、「感謝の心」を育みつつ、「明確な目標」をもって「自分らしく生きる」女性になろうと思う人
2. 歴史・社会・文化に関する少人数の講義やゼミを通して、コミュニケーション力、問題発見・解決能力といった人間力を高めたい人
3. 教養教育を通して社会人としての素養を身につけるとともに、歴史・社会・文化などに幅広く興味を持ち、実社会で生き抜くための実践的なスキルと創造的思考力を獲得し、様々な分野で活躍したい人

【入学前に培うことを求める力】

1. 知識・技能
高等学校までの履修科目について、基礎的な内容を総合的に学習している。

2. 思考力・判断力・表現力等の能力

自分の考えを論理的にまとめ、人に伝えるための基礎的な能力を身につけている。

3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

周りの人々や社会と主体的に関わり、ともに学ぶ態度を身につけている。

【評価方法】

1. 基礎知識・技能

学力試験（一般選抜、大学入学共通テスト利用）、調査書（評定平均値）の活用、外部資格試験結果（学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜）によって、高等学校までの履修科目について、基礎的な内容を修得していることを評価する。

2. 思考力・判断力・表現力

選択課題（学校推薦型選抜、総合型選抜）によって、自分の考えを論理的にまとめ、人に伝えるための基礎的な能力を評価する。

3. 主体性・協働

調査書等の内容（学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜）、面接（学校推薦型選抜、総合型選抜）によって、周りの人々や社会と主体的に関わり、ともに学ぶ態度を評価する。

心理学科 アドミッション・ポリシー

【求める学生像】

1. すなおな探究心を持ち、心について科学的なものの見方ができる人
2. 豊かな感性をそなえ、思いやりの心をもって他者と関わることができる人
3. 心理学の知識や技能を生かして社会で活躍し、貢献したいと思っている人

【入学前に培うことを求める力】

1. 知識・技能

- ・高等学校までの履修内容を総合的に身につけている。
- ・自分の個性（能力、意欲、性格など）について適切に認識している。
- ・多彩な背景を持つ人々と関わる社会的スキルを身につけている。

2. 思考力・判断力・表現力等の能力

- ・修得している知識や技能を、一般的な社会的事象と結びつけることができる。
- ・ものごとに対して体系的に考え、筋道立った判断ができる。
- ・会話および文章を通じて、自身の考えを他者に伝えることができる。

3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・課題や学習を、主体的に工夫し、乗り越えてきた経験がある。
- ・自ら選んで学び、その学びを自分の今後に活かそうとする意欲がある。
- ・クラブ活動やボランティア活動などを通して、さまざまな人と関わった経験がある。

【評価方法】

1. 基礎知識・技能

学力試験（一般選抜、大学入学共通テスト利用）、調査書（評定平均値）の活用、外部資格試験結果（学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜）によって、高等学校までの履修科目について、基礎的な内容を修得していることを評価する。

2. 思考力・判断力・表現力

選択課題（学校推薦型選抜、総合型選抜）によって、自分の考えを論理的にまとめ、人に伝えるための基礎的な能力を評価する。

3. 主体性・協働

調査書等の内容（学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜）、面接（学校推薦型選抜、総合型選抜）によって、周りの人々や社会と主体的に関わり、ともに学ぶ態度を評価する。

日本文化学科 アドミッション・ポリシー

【求める学生像】

1. 日本文化への造詣を深めることにより、バランスの取れた知性と豊かな表現力、繊細でしなやかな共生能力を備えた女性になりたい人
2. 日本古典文学、日本近代文学、日本語、日本美術、日本の伝統芸能・民俗の理論的な科目の他、書道、日本舞踊、茶道、華道、日本画、能の仕舞・謡いの実技科目を通して、日本文化の独自性を世界へ発信したい人
3. 日本文化に関わる講義やゼミを通して、文化の多様性を理解し、コミュニケーション力、多面的、論理的に物事を考える能力を身につけ、幅広いフィールドで活躍したい人

【入学前に培うことを求める力】

1. 知識・技能
高等学校までの履修科目について、基礎的な内容を総合的に学習している。特に読解力、文章力が養われている。
2. 思考力・判断力・表現力等の能力
自分の考えを論理的にまとめ、人に伝えるための基礎的な能力を身につけている。
3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度
周りの人々や社会と主体的に関わり、共に学ぶ態度を身につけている。

【評価方法】

1. 基礎知識・技能
学力試験（一般選抜、大学入学共通テスト利用）、調査書（評定平均値）の活用、外部資格試験結果（学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜）によって、高等学校までの履修科目について、基礎的な内容を修得していることを評価する。
2. 思考力・判断力・表現力
選択課題（学校推薦型選抜、総合型選抜）によって、自分の考えを論理的にまとめ、人に伝えるための基礎的な能力を評価する。
3. 主体性・協働
調査書等の内容（学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜）、面接（学校推薦型選抜、総合型選抜）によって、周りの人々や社会と主体的に関わり、共に学ぶ態度を評価する。

<p>学部等名 教育学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2021/10/2020jikotenken.pdf P11 ）</p>
<p>（概要） 教育学部は、幼児教育学科・児童教育学科)からなる。幼児教育学科は、「社会人としての基礎的教養を土台として、幼児教育と保育に関する専門的な知識・技術を修得し、この能力を活かして、広く社会に貢献する人材の養成を目的」とし、児童教育学科は「教育に関する専門的な知識・技能・態度を修得し、様々な教育問題に適応できるコミュニケーション能力と実践能力のある人材の養成を目的」とする。 本学の目的である「教養ある女性の養成」と「社会に貢献しうる女性の養成」に総合的である。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/DP2022.pdf ）</p>
<p>（概要） 教学マネジメント会議において、卒業の認定に関する方針として建学の精神に基づいたディプロマ・ポリシーを策定し、ホームページ上に公開している。 学生の卒業にあたっては、ディプロマ・ポリシー及び学科毎に定められた単位数の修得状況を踏まえて卒業判定会議を行い、そこで承認された者について卒業を認定し、学位を授与している。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/CP2022.pdf ）</p>
<p>（概要） 【教育課程の編成】 教育学部は幼児教育学科、児童教育学科を設置し、各学科が全学共通科目と学科専門科目を体系的に配置する。 【学修方法・学修過程】 全学共通カリキュラムによる教養教育と職業人教育に加えて、各学科の専門科目を初年次から履修可能とする。 学年進行とともに、順次性のある専門的な科目を配置し、卒業論文を必修とする。 少人数のゼミナールを低年次から高年次まで導入する。 各学科のカリキュラム・ポリシーに沿って、実習科目を中心とするアクティブラーニングによって体験的、主体的に学修を行う。 取得単位数の上限を設定し（CAP制）、学生の学修を支援する。 【学修成果の評価の在り方】 GPAによる成績評価を運用し、適切な評価を行う。 各学生の学修の展開と成果を学修ポートフォリオによって評価する。 実習の記録などを通じて、学生の主体的な学修と協働の態度を養い、評価する。 ルーブリックにより、基礎的な学力、思考力、主体的な協働を評価する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/AP2022.pdf）</p>
<p>（概要） <u>幼児教育学科 アドミッション・ポリシー</u> 【求める学生像】 1. 子どもの発達について専門的な知識や子どもを楽しませる技術を身につけ、子どもと共に生きることができる保育者を目指す人 2. 建学の精神を理解し、全ての「ひと・もの・こと」に感謝できる保育者を目指す人 3. 幼稚園教諭・保育士・施設職員を目指す人</p>

【入学前に培うことを求める力】

1. 知識・技能

高等学校までの履修内容を総合的に身につけている。

2. 思考力・判断力・表現力等の能力

自分の考えや気持ちをまとめ話したり文章で表現できる。

3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

幅広い人々と主体的に交流し、ともに学ぶ態度を身につけている。

【評価方法】

1. 基礎知識・技能

学力試験（一般選抜、大学入学共通テスト利用）、調査書（評定平均値）の活用、外部資格試験結果（学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜）によって、高等学校までの履修科目について、基礎的な内容を修得していることを評価する。

2. 思考力・判断力・表現力

選択課題（学校推薦型選抜、総合型選抜）によって、自分の考えを論理的にまとめ、人に伝えるための基礎的な能力を評価する。

3. 主体性・協働

調査書や志願者本人が記載した資料などの内容（学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜）、面接（学校推薦型選抜、総合型選抜）によって、周りの人々や社会と主体的に関わり、ともに学ぶ態度を評価する。

児童教育学科 アドミッション・ポリシー

【求める学生像】

1. 「感謝の心」を土台として協調性と主体性を兼ね備え、自ら学び続ける女性教員を目指したい人

2. 少人数教育を通して、教員に必要な専門性と今日の社会に対応するための課題解決能力を身につけたい人

3. 児童に対する深い愛情を持ち、児童の創造的な学習活動を支えていく能力を獲得し、教育に関連する分野で活躍したい人

【入学前に培うことを求める力】

1. 知識・技能

教職の専門的知識・技能を身につけるために必要な基礎的学力と学究への好奇心を有している。

2. 思考力・判断力・表現力等の能力

自分の考えを論理的にまとめ、人に伝えるための基礎的な能力を身につけている。

3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な立場を理解し、協力し合うために必要なコミュニケーションの基本的能力を身につけている。また、ボランティアなど活動を積極的に取り組んでいく意志を持っている。

【評価方法】

1. 基礎知識・技能

学力試験（一般選抜、大学入学共通テスト利用）、調査書（評定平均値）の活用、外部資格試験結果（学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜）によって、高等学校までの履修科目について、基礎的な内容を修得していることを評価する。

2. 思考力・判断力・表現力

選択課題（学校推薦型選抜、総合型選抜）によって、自分の考えを論理的にまとめ、人に伝えるための基礎的な能力を評価する。

3. 主体性・協働

調査書や志願者本人が記載した資料等の内容(学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜)、面接(学校推薦型選抜、総合型選抜)によって、周りの人々や社会と主体的に関わり、ともに学ぶ態度を評価する。

学部等名 生活創造学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2021/10/2020jikotenken.pdf P11 ）
<p>（概要）</p> <p>生活創造学部は、生活文化学科・観光文化学科からなる。生活文化学科の人材養成の目的は、「現代社会で起こっている食と健康の問題を的確にとらえ、社会に貢献できる能力」「栄養士・栄養教諭として栄養指導・給食管理ができる知識・技術の習得」「外食産業・商品開発・地域の活性化などフードビジネスの場でも活躍できる能力の育成」であり、観光文化学科は、「観光についての幅広い知識、洞察力、企画力、さらには日本と海外の歴史・文化に関する知識及び外国語コミュニケーション力を修得し、ホスピタリティ産業で活躍できる人材の養成」である。</p> <p>生活全般の豊穰化に関する教養を涵養したうえで、実践的能力の獲得を目指しており、本学の目的に整合的である。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/DP2022.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>教学マネジメント会議において、卒業の認定に関する方針として建学の精神に基づいたディプロマ・ポリシーを策定し、ホームページ上に公開している。</p> <p>学生の卒業にあたっては、ディプロマ・ポリシー及び学科毎に定められた単位数の修得状況を踏まえて卒業判定会議を行い、そこで承認された者について卒業を認定し、学位を授与している。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/CP2022.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>【教育課程の編成】</p> <p>生活創造学部は生活文化学科、観光文化学科を設置し、各学科が全学共通科目と学科専門科目を体系的に配置する。</p> <p>【学修方法・学修過程】</p> <p>全学共通カリキュラムによる教養教育と職業人教育に加えて、各学科の専門科目を初年次から履修可能とする。</p> <p>学年進行とともに、順次性のある専門的な科目を配置し、卒業論文を必修とする。</p> <p>少人数のゼミナールを低年次から高年次まで導入する。</p> <p>各学科のカリキュラム・ポリシーに沿って、実習科目を中心とするアクティブラーニングによって体験的、主体的に学修を行う。</p> <p>取得単位数の上限を設定し（CAP制）、学生の学修を支援する。</p> <p>【学修成果の評価の在り方】</p> <p>GPAによる成績評価を運用し、適切な評価を行う。</p> <p>各学生の学修の展開と成果を学修ポートフォリオによって評価する。</p> <p>実習の記録などを通じて、学生の主体的な学修と協働の態度を養い、評価する。</p> <p>ルーブリックにより、基礎的な学力、思考力、主体的な協働を評価する。</p>
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/AP2022.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>生活文化学科 アドミッション・ポリシー</p> <p>【求める学生像】</p> <p>1. 「自覚ある女性」の育成という川村学園建学の精神を理解し、食、栄養、健康に関心を持つ人</p>

2. 「食」の問題を中心に、家庭と家族に関する問題、環境問題、消費者問題、女性問題などに関心を持つ人
3. 多様化した社会を理解し、健康をサポートする栄養指導や地産地消を念頭に置いた商品開発などによる地域貢献や地域の活性化に関心を持つ人

【入学前に培うことを求める力】

1. 知識・技能
高等学校までの履修科目について、基礎的な内容を総合的に学習している。
2. 思考力・判断力・表現力等の能力
自分の考えを論理的にまとめ、人に伝えるための基礎的な能力を身につけている。
3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度
周りの人々や社会と主体的に関わり、ともに学ぶ態度を身につけている。

【評価方法】

1. 基礎知識・技能
学力試験（一般選抜、大学入学共通テスト利用）、調査書（評定平均値）の活用、外部資格試験結果（学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜）によって、高等学校までの履修科目について、基礎的な内容を修得していることを評価する。
2. 思考力・判断力・表現力
選択課題（学校推薦型選抜、総合型選抜）によって、自分の考えを論理的にまとめ、人に伝えるための基礎的な能力を評価する。
3. 主体性・協働
調査書等の内容（学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜）、面接（学校推薦型選抜、総合型選抜）によって、周りの人々や社会と主体的に関わり、ともに学ぶ態度を評価する。

観光文化学科 アドミッション・ポリシー

【求める学生像】

1. 社会、文化、自然などのさまざまな問題に関心を持ち、自分の考えを持つように努める人
2. 自分の考えを多様な他者や社会に対して、適切に表現し伝えようと努める人
3. 積極的に他者と関わるように努める人
4. 自分の知識や技能を地域や社会に役立てようと努める人

【入学前に培うことを求める力】

1. 知識・技能
高等学校までの履修科目について、基礎的な内容を総合的に学習している。
2. 思考力・判断力・表現力等の能力
・身につけた知識や技能から、身近な問題や現実の社会のさまざまな問題について考えることができる。
・自分の考えや思いを他者に適切に伝えるために、話したり文章で述べたりすることができる。
・ものごとを筋道立てて考えることができる。
3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度
・これまでに学んだことに基づいて、主体的に自分の考えを持つことができる。
・いろいろな立場や考え方を持つ他者を理解する努力ができる。
・クラブ活動などを通して、周りの人と協働しながら学ぶ態度を身につけている。

<p>【評価方法】</p> <p>1. 基礎知識・技能 学力試験（一般選抜、大学入学共通テスト利用）、調査書（評定平均値）の活用、外部資格試験結果（学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜）によって、高等学校までの履修科目について、基礎的な内容を修得していることを評価する。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力 選択課題（学校推薦型選抜、総合型選抜）によって、自分の考えを論理的にまとめ、人に伝えるための基礎的な能力を評価する。</p> <p>3. 主体性・協働 調査書等の内容（学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜）、面接（学校推薦型選抜、総合型選抜）によって、周りの人々や社会と主体的に関わり、ともに学ぶ態度を評価する。</p>
--

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/guide/disclosure/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
文学部	—	16人	7人	3人	1人	0人	27人
教育学部	—	9人	6人	4人	0人	1人	20人
生活創造学部	—	9人	8人	3人	0人	3人	23人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		104人				104人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/2022gyouseki-1.pdf					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教員の資質・能力向上の取り組みとして「学生による授業評価アンケート」「教員相互の授業参観」をそれぞれ半期毎に実施し、FD研修は年に2～3回実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	140人	87人	62.1%	560人	530人	94.6%	若干名人	4人
教育学部	120人	44人	36.7%	480人	216人	45%	若干名人	0人
生活創造学部	100人	31人	31%	400人	260人	65%	若干名人	5人
合計	360人	162人	45%	1440人	1006人	69.9%	若干名人	9人

(備考)

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	140人 (100%)	3人 (2.1%)	102人 (72.9%)	35人 (25.0%)
教育学部	74人 (100%)	1人 (1.4%)	71人 (95.9%)	2人 (2.7%)
生活創造学部	69人 (100%)	0人 (0.0%)	53人 (76.8%)	16人 (23.2%)
合計	283人 (100%)	4人 (1.4%)	226人 (79.9%)	53人 (18.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
茨城県教育委員会・柏こぼと学園・柏市役所・千葉県教育委員会・マーキュリー・メフォス東日本				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	149人 (100%)	127人 (85.2%)	4人 (2.7%)	14人 (9.4%)	2人 (1.3%)
教育学部	76人 (100%)	73人 (96.1%)	0人 (0%)	3人 (3.9%)	0人 (0%)
生活創造学部	76人 (100%)	68人 (89.5%)	1人 (1.3%)	7人 (9.2%)	0人 (0%)
合計	301人 (100%)	268人 (89%)	5人 (1.7%)	24人 (8%)	2人 (0.7%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 12月にシラバス作成に関するFD研修を開催する。
 各教員はFD研修の内容及び「シラバス作成のためのガイドライン」に基づき、1月中旬にシラバスの入稿を行う。
 入稿期間終了後、学科長等がシラバスの内容確認・修正指示を行い、シラバスの内容に不備のあった教員は修正を行う。
 全シラバスの入稿が完了する3月中旬から下旬にホームページ上にシラバスを公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
各学生の学修成果を、学生の授業への取り組む姿勢・試験結果・レポートの内容・卒業論文・ルーブリックによる評価等により多元的に把握している。 上記の方法により把握した学生の学修成果を、シラバスに記載された成績評価の方法及び基準により、厳格かつ適正に評価して単位を与えている。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	国際英語学科	124 単位	有・無	48 単位
	史学科	124 単位	有・無	48 単位
	心理学科	124 単位	有・無	48 単位
	日本文化学科	124 単位	有・無	48 単位
教育学部	幼児教育学科	124 単位	有・無	48 単位
	児童教育学科	124 単位	有・無	48 単位
生活創造学部	生活文化学科	124 単位	有・無	48 単位
	観光文化学科	124 単位	有・無	48 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 : https://www.kgwu.ac.jp/guide/disclosure/ircenter/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/04/2022_kouchigaiyou.pdf

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	国際英語 学科	750,000 円	250,000 円	387,000 円	設備資金・施設費・実験実習費 令和4年度入学者
		696,000 円	—	267,000 円	施設費・実験実習費 令和3年度入学者
		696,000 円	—	217,000 円	施設費・実験実習費 令和2年度以前入学者
	史学科	750,000 円	250,000 円	378,000 円	設備資金・施設費・実験実習費 令和4年度入学者
		696,000 円	—	258,000 円	施設費・実験実習費 令和3年度入学者
		696,000 円	—	208,000 円	施設費・実験実習費 令和2年度以前入学者
	心理学科	750,000 円	250,000 円	395,000 円	設備資金・施設費・実験実習費 令和4年度入学者
		696,000 円	—	275,000 円	施設費・実験実習費 令和3年度入学者
		696,000 円	—	225,000 円	施設費・実験実習費 令和2年度以前入学者
	日本文化 学科	750,000 円	250,000 円	387,000 円	設備資金・施設費・実験実習費 令和4年度入学者
		696,000 円	—	267,000 円	施設費・実験実習費 令和3年度入学者
		696,000 円	—	217,000 円	施設費・実験実習費 令和2年度以前入学者

教育学部	幼児教育学科	750,000 円	250,000 円	421,000 円	設備資金・施設費・実験実習費 令和4年度入学者
		696,000 円	—	301,000 円	施設費・実験実習費 令和3年度入学者
		696,000 円	—	225,000 円	施設費・実験実習費 令和2年度以前入学者
	児童教育学科	750,000 円	250,000 円	399,500 円	設備資金・施設費・実験実習費 令和4年度入学者
		696,000 円	—	279,500 円	施設費・実験実習費 令和3年度入学者
		696,000 円	—	225,000 円	施設費・実験実習費 令和2年度以前入学者
生活創造学部	生活文化学科	750,000 円	250,000 円	414,000 円	設備資金・施設費・実験実習費 令和4年度入学者
		696,000 円	—	294,000 円	施設費・実験実習費 令和3年度入学者
		696,000 円	—	217,000 円	施設費・実験実習費 令和2年度以前入学者
	観光文化学科	750,000 円	250,000 円	387,000 円	設備資金・施設費・実験実習費 令和4年度入学者
		696,000 円	—	267,000 円	施設費・実験実習費 令和3年度入学者
		696,000 円	—	217,000 円	施設費・実験実習費 令和2年度以前入学者
全学部	—	250,000 円	495,000 円	設備資金・年間休学中の在籍料 令和4年度入学者	
	—	—	348,000 円	年間休学中の在籍料 令和3年度以前入学者	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

川村学園女子大学は、建学の精神に則り、その目的とする人材養成を実践するために、全ての学生が修学・生活及び進路に向けた取り組みを通して豊かな人間性を涵養し、資質及び能力を十分に発揮することができるよう、学長による教学マネジメントの下、教職協働により支援を行う。支援にあたっては、学生の人権を尊重するためにハラスメント防止に努めるものとする。

修学の支援

1. 学生が学修を円滑に進めていくことができるよう相談を含めた指導を行う。
2. 学位授与の方針及び教育課程の方針と日常の学びとの関係性の理解に資するため、シラバスの工夫や科目ナンバリング明示及び学修ポートフォリオの活用を支援する。
3. 授業評価アンケートを通して、学修の理解度の把握に努め、教員から学生へのフィードバックを行う。
4. 成績不振の学生の状況を把握し、学生個々に必要な指導・助言を行う。

学生生活の支援

1. 学生の人格形成に資するため、目的意識と主体性を持ち、課外活動に取り組めるよう支援する。
2. 安心して学生生活を送れるよう経済的事情のある学生の相談に乗り、奨学制度等の対応を行う。
3. 学生が健全な生活を送れるように健康相談・心の相談に対応する。

<p>4. 自立性を育むため学生寮の生活を円滑に送れるように支援する。</p> <p><u>キャリア支援</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生個々の個性を尊重し、多様な進路選択に資するよう柔軟なキャリア支援を行う。 2. 教育課程の内外にわたり社会的職業的基礎力を育む学年毎のプログラムを実践する。 3. 教員、職員との連携を強化し、学生のインターンシップ、就職活動を支援する。 4. 学生のインターンシップ、就職活動を円滑に支援するため、情報収集及び提供に努める。 <p><u>障がいのある学生の支援</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」に基づき、本学に在籍する学生が、障がいの有無にかかわらず、建学の精神に基づき、相互に人格と個性を尊重し合いながら共に学び合う大学として、障がいのある学生の支援の実現に努める。 2. 障がいのある学生が、他の学生と平等に教育を受ける権利を享有・行使することを確保するために本人からの申請に基づき、障がいのある学生に対して合理的配慮に基づく支援を行う。
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>本学では一人ひとりと向き合う個別指導を基本とし、各種講座やガイダンス、外部講師を招いての特別講演会を開催。就活生を勇気づけ、活動がスムーズに進められるよう支援しています。特に就職委員の教員・ゼミ担当教員および職員が密に連絡を取り情報を共有し、それぞれの学生に寄り添ったサポートを行っています。特別講演会では、各業界を代表する方々を招き、業界の動向、企業の求める人材等をお話いただき、理解を深めています。また、インターンシップへの参加を積極的に支援しています。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>1. 我孫子キャンパス</p> <p><u>(学生相談室)</u></p> <p>専任の公認心理師・臨床心理士資格者を配置している。 学生生活全般における心身の健康、対人関係、性格・適性等の相談に関する事項</p> <p><u>(健康支援室)</u></p> <p>専任の看護師を配置している。 学生の健康診断、ケガ病気の応急処置、疾病予防、健康相談に関する事項</p> <p>2. 目白キャンパス</p> <p><u>(学生相談室)</u></p> <p>非常勤の公認心理師・臨床心理士資格者を週2日配置している。 学生生活全般における心身の健康、対人関係、性格・適性等の相談に関する事項</p> <p><u>(健康支援)</u></p> <p>健康診断結果を受けて、有所見者に対して我孫子キャンパスの看護師が出向き、個別面談指導を行っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：https://www.kgwu.ac.jp/guide/disclosure/</p>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F112310102529
学校名	川村学園女子大学
設置者名	学校法人 川村学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		112人	113人	—
内 訳	第Ⅰ区分	65人	66人	
	第Ⅱ区分	29人	34人	
	第Ⅲ区分	18人	13人	
家計急変による支援対象者（年間）				—
合計（年間）				123人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	14人		
計	14人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	28人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	11人		
計	31人		
(備考) ・GPA等が下位4分の1(28名)に、斟酌すべきやむを得ない事情がある場合の特例措置【特例1】1名を含む。 ・出席率等が8割以下その他学修意欲が低い状況(11名)に、斟酌すべきやむを得ない事情がある場合の特例措置【特例1】1名を含む。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。